

中部地方におけるコムシ目の多様性 Diversity of Diplura in Central Japan

○関谷薫（筑波大・菅平高原実験センター）, Robert T Allen (The Academy of Natural Sciences of Drexel University), 町田龍一郎（筑波大・菅平高原実験センター）

コムシ目 (Diplura) はナガコムシ亜目 (Rhabdura) とハサミコムシ亜目 (Dicellurata) の二亜目からなる、土壌生活性の六脚類（広義の昆虫類）である。細長い体に数珠状の長い節触角をもち、ナガコムシ亜目は尾端に一对の糸状の長い尾を備え、ハサミコムシ亜目は尾端に褐色のハサミを備えている (Fig.1)。世界からは 800 種以上が報告されているが、日本からはナガコムシ亜目 1 科 3 属 5 種、ハサミコムシ亜目 2 科 2 属 7 種が知られるのみである。日本におけるコムシ目の分類学的研究は 1900 年代前半のイタリア人研究者 Silvestri による限られた地域（雲仙・京都・日光・熱海など）での研究 (Silvestri 1928, 1931) 以降全く行われていない。コムシ目は同じく陸生節足動物であるダニ類やトビムシ目、カマアシムシ目と比べ、まとまった個体数を得ることが比較的困難であることや、種同定の困難さなどから、分布、生態、種分類といった多様性把握に重要な知見の蓄積が最も遅れている陸生節足動物の一つである。そこで演者らは、日本におけるコムシ目相の解明、その多様性の把握を目的としてコムシ目の分類学的研究を開始した。

これまでに、演者らによる採集および多くの方からの標本提供により、1 都 1 府 20 県から 120 サンプルを得た。得られたサンプルからプレパラート標本を作成し、本邦既知種との原記載と照合して種同定を行った。既知種については、これまでパッチ状にしか知られていなかった分布情報に新たなデータを加え、各種の分布域把握を目指して研究を進めている。また、これまでに長野県上田市角間、入軽井沢、四阿山、松本市安曇、群馬県嬬恋村、静岡県伊豆市天城峠、山口県秋芳洞、長崎県諫早市、佐世保市の各地点からそれぞれ未記載種（うちナガコムシ亜目:8、ハサミコムシ亜目:1）が確認され、現在これらの記載を進めている。

コムシ目はこれまで、適度に湿り気のある林床のリターなどに多く生息していると考えられてきた。しかしながら、演者らの調査で、リター層の薄い高地や溪流沿いのがれ場など、これまで考えられてきた以上に多様な環境に生息していることが明らかとなってきた。特に、長野県上田市四阿山と松本市安曇（ともに標高 2000 メートル付近）から得られた 5 個体は、北米西海岸の冠雪地（標高 1600-1800 メートル）からのみ採集記録のある *Haplocampa* 属の一種である可能性が高く、非常に興味深い。

本発表では、こうした高地に産するコムシ目について現在までの知見をまとめるとともに、中部地方におけるコムシ目相について報告する。

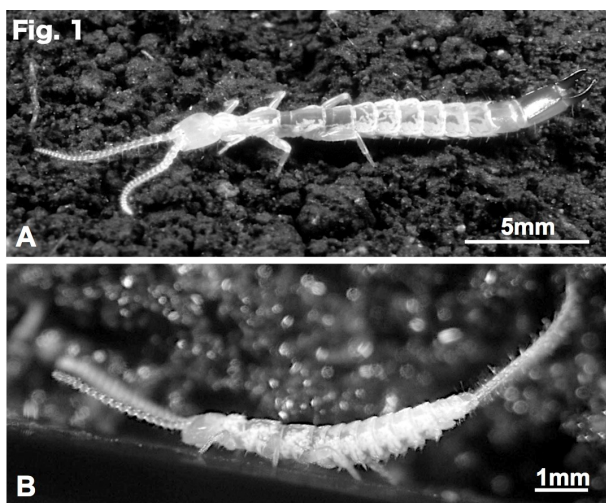


Fig. 1: Two suborders of Diplura.
A: Dicellurata, B: Rhabdura.